

（要）

極秘

電報

報

通電先次長 總參謀長（漢口南京）

昭和一九一七
六三〇〇〇
三〇〇九三〇
六三〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇

日誌用

旭參電第八二九號 旭部隊參謀長

二十九日朝ニ於ケル狀況

一 要旨

萬縣城ノ敵ハ依然頑強ニ抵抗ス岩佐、針部隊ハ銳意之ヲ力攻中ナリ

二 各部隊ノ狀況

(1) 岩佐部隊

佐部隊ノ一部（松山、田部、兩大隊）ハ揚

子江東岸地區ノ掃蕩ヲ完了シ岩佐兩

部隊ハ銳意萬縣城ヲ力攻中ニシテ

②

敵ハ據點ヨリ退却。毎ニ該據點ニ放火
 燒却スルハ焦土戰術ヲ執リアルモノ如シ
 目下市街ノ約四〇分ノ一ヲ燒却シアリ
 昨二十八日十時三十分頃萬縣レ南側台上ニ於
 テ第一線大隊ノ戰鬥指導中、佐部隊長
 參謀長又松浦參謀戰傷セリ。萬縣レ南
 側敵陣地前ニハ無敵ノ湖水ニ配セル多
 數ノ特火點アリ又敵ノ野山砲及迫撃砲ハ
 相當活潑ナリ。飛行場ハ目下銳意修復
 中ニシテ主ナル彈痕一〇箇、副滑走路
 四箇ニ修理ナルモ直協機ノ着陸ハ可能ナリ
 飛行場所屬建物中約四〇棟ハ燒却シ
 爾モ約三〇棟殘存シ萬縣レ西北角ニ

266

1868

約二名ヲ收容シ得ル共舎アリ 各種飛行機
 用機体完全ナルモノニアリ 飛行場附近、
 ドラハ罐ハ全部空罐ナリ停車場ハ完全ニ
 破壊セラレアルモ機關車ニ(破壊)貨車約
 百輛(一部破壊)石炭千匁桐油護謨
 タイトル等多數アリ萬縣附近、鐵道橋
 ハ橋礎ハ概テ残存シアルモ橋脚ハ約半數
 破壊セラレアリ
 昨二十八日萬縣附近ニ七時十分頃ヨリ二十時
 過半迄ニ敵機來襲回数一四回來襲延機
 數一〇九機(B-1=五機=八機 P-1四〇機
 七七機 P-1五二機四機)ニ及ベリ

(2) 司令部

二十八日十一時 八尺嶺（飛行場東北）附近

到着佐部隊ト協力シ 萬縣ヲ攻撃中ナリ

(3) 砲部隊

昨夕挺進聯隊ハ安仁東方高地ノ敵ヲ攻撃

中先遣隊ハ安仁附近ニ於テ永樂江ニ加橋

中ニシテ攸縣附近ノ橋梁ハ敵機ノ為大半

破壊セラレタル為 目下再架橋中ニシテ

主力ノ前進遲延シアリ

(4) 山廣成部隊ハ依然大ナル變化ナシ

(5) 碑部隊ハ達摩山系ノ敵掃蕩ヲ概テ完了

十五時一部ヲ以テ永安市附近（新涼東

南）及福臨鋪道（一語不明）地區ニ進出セリ

(6) 軍自動車部隊ノ（言語不明）ヲ以テ

推進ヲ企圖シ健¹（平部隊配屬）廣²兩
部隊ヲ以テ乙兵站線²上ニアル自動車²約
一ニ〇〇輛ヲ七月十七日頃迄²ニ易俗河附近
ニ推進セシムル如ク指示セリ

（終）

軍機極秘親展

1881

1872

第 二 課

日誌用

機密

傍受電報

昭和一九、七、一

六月三十日發
七月一日五時
電報(受付)

旭放送第三四號 六月三十日 旭部 參謀長

一各部隊狀況

(1) 「岩」部隊長「草縣」攻撃部隊ヲ併シ指揮ス「岩」「佐」

「針」各部隊地障ト火網ヲ巧ニ利用頑強ニ抵抗スル敵ニ對シ

後續砲兵部隊等ヲ逐次掌握シ力行中

(2) 「鷹」部隊推進部隊ヲ以テ「來陽」附近ニ主力ヲ以テ「安仁

附近ニ本三十日夕進出セシ管

(3) 「極」部隊本夕「建始」附近ニ集結中

敵状

(1) 萬縣一城內守備軍二箇師ナルモノ加ク第一〇軍長ハ二十八日夜脱出セシヤノ疑アリ

別ニ「雲南」行營第四八師ノ臨時防砲一箇營及第六二軍第一五一師ハ兵力不明ニ一部アルモノノ如シ

(2) 第六二軍北上ハ確實ナリ主力ハ「來陽」周邊ニアルモノト傳聞セラル

(3) 第四八軍主力ノ動靜ニ關シテハ新報ヲ得ズ

(4) 第一六二師及第九九師ハ「鹿港市」(「建始」北三〇軒)南方地區ニ於テ「福」縣隘ト道邊モリ動後「鹽廠」方向ヨリ南下ヲ企圖シアルモノノ如シ

第三課

日誌 秘

傍受電報

旭放送第三五號(七月一日)

旭 部 隊 參 謀 長

昭和一九、七、二

七月日二七時 (電報班受付)

一各隊ノ狀況

(1)「萬縣」攻勢部隊岩部隊長統一指揮ノ下ニ昨三十日態勢ヲ整
ト重點ヲ一掃抵抗ニ「萬縣」東側ニ沿フ地區ニ指向シ遂
次攻隊ヲ開始力攻中

(2)「鹿」部隊、三連部隊ノ先頭ヲ以テ一日朝「利川」東側地區
ヲ急進中

「安仁」附近ニ於テ「米水」ヲ渡河明日迄ニ「安仁」

272

1875

附近ニ進出ス

(3) 山部隊主力ハ「黄泥沟」
「酒粉舖」
「做寨」
「茶頭舖」
「禮

陵」ニアリテ攻勢ヲ準備中

(4) 「成」部隊ハ一部ヲ以テ「蒲郷」ヲ確保セシメ主力ハ二十日

夜「蒲郷」附近ヲ出發ニ繼テ「ナリ」
「永興」ニ向テ前進中

ニ敵情

(1) 「遂川」飛行場ヲ破壊六月二十七日來使用ヲ禁シ、
「牙城」

飛行場ハ六月二十九日破壊ヲ開始セルモ、ノ如シ

(2) 第六二軍、軍部ハ第九戰區長官部ノ近傍ニナリ



秘

日誌用

電報

六月三十日朝ニ於ケル狀況
旭部 支隊 支總(南京漢口)
旭部 支隊 支總(南京漢口)
旭部 支隊 支總(南京漢口)

六月三十日朝ニ於ケル狀況
旭部 支隊 支總(南京漢口)
旭部 支隊 支總(南京漢口)
旭部 支隊 支總(南京漢口)

萬縣城ノ敵ハ有スル地障及防禦施設ヲ
利用シテ火カト逆襲トニ依リ頑強ニ抵抗シアリテ
岩佐ハシ部隊ハ逐次敵ノ抵抗集ヲ撃滅
掃蕩シツツ包圍圈ヲ壓縮中ニシテ各部隊
ノ前進遲延シアリシ砲兵及後方部隊ハ
來着ヲ俟ツテ岩佐ハシ部隊ヲ統一指揮

セシメ萬縣ヲ攻略セシムルト共ニ成部隊
ヲシテ永豐附近ノ敵ヲ擊滅シハニ語不
明シヨ占領シ爾後有力ナル一部ヲ以テ渣
江(萬縣西北方ニ五料)附近ニ突進スル
如ク本日部署セリ
萬縣城内ノ敵ハ第一軍ニ箇師ナルモ
如ク
尚

(電註以下一部未著)

二 巴東飛行場ノ狀況

二十九日夕迄幅五百米長サ一三〇米完成

三十日夕迄幅百米長サ一三〇米完成豫定

三 鐵道狀況

鐵道第三聯隊主力ハ江東岸ニ一部ハ萬

縣ニ進出

(2) 萬縣附近ノ敵ヲ掃蕩シ輪轉材料機關車

中破一、大破六(大修理後使用可能)貨

車七、石炭五千觔

(3) 汨水湘江ノ鐵橋破壞セラレアリ

(4) 金獸山隧道一列車(機關車ニ貨車二)

ヲ脱線兩入口及中間計三箇所ヲ爆破ス

四 車站線ノ撤去

岳州—金井—長沙道ノ構築ヲ中止シ
ニ部隊ヲ長沙附近ニ集結セシムルト共ニ
(一語不明)ニ向ヒ前進中ノ自動車約十二
中隊ヲ崇陽、岳州ヲ經テ長沙ニ向ヒ轉進
セシメ爾後陳家鋪以北ノ兵站線ヲ撤去
ス

1880

277

第三編

日誌用

電報 號外

旭放送第三六號 七月二日

七月三日五時 (電報班受付)

昭和一九、七、三

一 軍ハ萬縣飛行場及鐵道要部ヲ無疵占領ノ爲追撃態勢ヲ以テ迅速ニ萬縣ニ突進概ネ其ノ目的ヲ達成セルモ萬縣城ニ據レル敵ハ地障ニ據リ防禦火網ヲ巧ニ布置シ頑強ニ抵抗シアリ。軍ハ第一線ヲシテ一時攻撃ヲ中止シ敵ノ脱逸ヲ警戒セシメ後方附近ニ於テ火力部隊ヲ推進シ航空部隊主力ノ強力ナル直接協同ノ下ニ一舉敵軍ヲ滅亡ニ決ス

ニ 各部隊ノ狀況

(1) 針形隊 昨日二十三時蒸水ヲ渡河嶺神渡南岸地區ノ敵特火點ヲ急襲此レヲ奪取、爾後逐次特火點ヲ攻略シツツ本二日七時三十分小門四方三〇〇米附近ニ進出セリ。爾他ノ萬縣攻略部隊ハ反復力攻セシニ銃砲彈缺乏ノ爲攻撃進捗セズ、航空部隊ハ全力ヲ擧ゲテ二日萬

縣ヲ攻撃シ且本夜彈藥ノ補給ヲ行フ

(2) 廣部隊 遂進聯隊ハ二日未明小水鋪(來陽南一〇軒)進出シ川湖

公路ヲ分斷敵ノ退路ヲ遮斷セリ

敵情

(1) 第九戰區長官部ハ宜章(衡州南一六〇軒)第九兵站總監部ハ桂陽(衡

州南々西約一三〇軒)ニアリ

(2) 第二六軍ハ六月二十七日白攻(萍鄉南二〇軒)柏衝下(西南方一二

軒)附近ニ於テ我ト交戦彼縣西方地區ニ移動中。又第一八軍ハ萍鄉

同南方地區ヲ進撃シツツアルモノノ如シ

(3) 第一八軍ハ近々耒河口ニ到着セルモノノ如ク第七七師ハ益陽ニ進出

沅江攻撃ヲ企圖シアルモノノ如シ

(4) 第五八師ハ第一〇〇軍七ノ指揮下ニ入レルモノノ如シ

明日ノ天氣豫報

瓜山 晴 雨ヨリノ風 一―二米

萬縣 曇 北東ノ風 一―三米

軍機秘親展

日誌用

極秘

電

報

七三〇〇四發

七三二二三發

昭和一九三七三

通電先次長

旭部隊參謀長

總參謀長(莫口南京)

旭參電第八九〇號

七月一日朝ニ於ケル狀況

一 要旨

若佐針部隊ハ速次包圍圈ヲ壓縮スルト共ニ戦力ノ充實ヲ圖リアリテ敵ノ抵抗ハ依然頑強ナリ 隼部隊ニ連絡シ緊密ニ協力シテモ萬縣附近ノ制空ハ殆ド敵ノ掌中ニ在リ

二 各部隊狀況

(1) 成部隊

一部ヲ以テ湘鄉附近ヲ確保セン主カハ昨三十日夕出發

永豊ニ向テ作戰行動ヲ開始セリ

(2) 鹿部隊

主力ハ安仁附近ヲ挺進聯隊ハ來陽東方ニ。料附近ヲ來陽南方地區ニ向テ前進中ナリ

(3) 佐部隊

部隊ハ太田旅團長ノ指揮ヲ以テ岩部隊長ノ指揮下ニ入レリ

(4) 山部隊

攸縣若クハ襄陽方面ニ對スル攻勢準備ノ爲既報集結地ヲ南方ニ推進シテ、步兵第三十四聯隊ハ黄土峯附近ニ、步兵第六聯隊ハ泗汾諸附近ニ、步兵第六十八聯隊ハ攸縣附近ニ、騎兵八(步兵一大隊ヲ屬ス)醴陵附近ニ各集結スルヲ旨

(5) 健廣部隊

主カヲ以テ道路ヲ構築中ナリ

(6) 竹部隊

「建始」附近ニ集結ヲ完了シ爾後作戰ヲ準備中

(7)? 後續部隊

患者輸送隊ノ吉岡擔架中隊ハ瀏陽ノ患者ニ六〇名ヲ長沙ニ輸送中二十九日永安市西側地區ニ於テ敵戦闘機ニ機ニ遭遇直チニ患者ヲ附近ニ退避セシムト共ニ自行車ノ小銃及「チエツコ」輕機ニヲ以テ對空戦闘ヲ實施シ「P-40」型ノ機ヲ撃墜セリ

自隊ハ若干ノ損害ヲ生ゼルモ患者ニハ損害ナシ

三、開戦以來六月二十日迄（概ネ長沙攻略迄）ノ綜合戦果及

我が損害中目下判明セル主要ナルモノ左ノ如シ

由獲火砲使用ノ能否ハ調査中ナリ

遺棄死體 三五〇〇 俘虜 一一三〇

鹵獲品

重砲 一〇 野山砲 五一

(一字砲) 及機關砲 二九 迫撃砲 六七

重機 一五二 輕機 四七三

小銃 五五〇 擲彈筒 三〇三

砲彈 二〇四〇 重輕機 八五二〇

小銃彈 三三六四〇 地雷 一五〇〇

其他彈藥、糧秣、被服、多數

飛行機擊墜 三二

我が損害 戦死 一五〇三 内將校 一〇一名

戦傷 三六六二 内將校 二二五名 戦病約 四〇〇〇

戦死馬 九〇〇 戦病死馬 一七〇〇 戦傷馬 四五〇

戦病馬 七五〇〇 (戦傷馬中の半数將來使用ニ堪フル見込)

極秘 電班

日誌用

旭放送第一七號 七月三日

各隊ノ狀況

- (1) 岩部隊、針部隊ハ二日朝「小西門」(衡陽西北方ノ門)西北方三〇〇米ノ線ニ「志摩」支隊及岩部隊ハ概ネ「辰神渡」ヨリ西南方ニ通ズル道路線ニ「大田」支隊ハ概ネ鐵道ノ線ニ進出、島支隊中、岩部隊ニ配屬セタル石崎部隊ハ二日朝、獨立野砲兵第二聯隊ハ本三日朝各々「長嶺岡」出發「衡陽」ニ向ヒ前進セリ
- (2) 成部隊ハ本三日十一時「汪八嶼」(「永豐」東北一二軒)ニ在リ、第一線ハ所在ノ敵ヲ擊破シツツ「永豐」近傍ニ進出シアル筈
- 二日午後追撃砲ヲ有スル約五〇〇ノ敵西方ヨリ「湘鄉」ニ對シ攻撃シ來リ同地守備大隊ハ之ヲ攻撃中

七月四日〇時四〇電報班受付

七月四日〇時四〇電報班受付

旭 部 長 參 謀 長

昭和一九、七、四

(9) 鹿部隊昨二日夕歩兵第一一六聯隊ハ「來陽」及東方高地ニ進出シ來レ
ル敵第六〇師第一七八團及他ノ約一個團ニ對シ攻撃中

歩兵第六五聯隊ノ一大隊ハ「安仁」附近ニ於テ「茶陵」方向ヨリ南下
セル敵ヲ攻撃中、志力ハ「橋頭」ハ「安仁」西西北二四軒ニ司令部
ハ本三日朝「界頭」ハ「安仁」西南南二三軒ニ在リ

(4) 極部隊、小野支隊（歩兵二大隊、山砲二中隊）ヲ以テ「勸石廬」「社
港市」「双江口」（共ニ「瀏陽」北方地區）間ノ殘敵ヲ掃蕩セシメ主
力ハ本三日朝ヨリ逐次「瀏陽」南方地區ニ移動中、「瀏陽」ハ歩兵一
大隊ヲ以テ確保中

敵狀

「寶慶」ハ「湘潭」道ハ第五八師、「寶慶」ハ「衡陽」道ハ第七九軍ニ
於テ構築中

明日ノ天氣

南寄ノ風 ○一二米、曇

(終)

→ 敵狀

(1) 第五八軍及第七二軍ヲ以テ龍巖峽向テ企圖シ三浦歩兵ヲ同地附近

ニ進出スベク命ジテアリ

(2) 廣西省清遠附近ニアリシ督練隊三軍豫備隊六師各零隊ニ前進ヲ命

セラレタリ

(3) 奉天八師(瀋陽北原團)ハ六月二十七日順貴陽附近ニアルモノノ

如シ、爾後ハ鐵道沿線ニ依リ重慶方面ニ進出スベキヤ、行軍ニ依

リ寶慶ニ行路附近ニ進出スベキヤハ豫備中

(4) 敵(清)ノ動向不明ニ依リ豫備隊東部地方境限ニアルモノノ如シ、去ル一日

ニ於ケル進出スベキ

軍部東山(湘南北北軍)第七師、第六三師、第六次續(總領市西西北

一二師)第一九師、第一二師、第一九師、第五六團、寧鄉

ニ第師團軍、依水(依縣附近)於ケル淡水ノ支流(東岸附近)ニ集結

シ依縣攻撃ヲ企圖シアルモノノ如シ

攻堅部若クハ大要

湘南北北軍

(イ) 兵力、第一六一師(第四四八團及工兵營第二聯隊)ハ柏桑渡、攸縣東北四村ヲ攻略
子山ヨリ七月四日夜迄ニ渡河、主力ヲ以テ攸縣

(ロ) 第一五〇師ハ豫備隊ヲ蓮花

ハ一支隊高水(攸縣東南一〇村)ヨリ茶陵ニ前進待機第二〇軍ト連
繫攻ム

明日ノ天氣

(1) 衡陽高雲時々晴 南ヨリノ風二―四米

(2) 長沙高雲時々曇 南寄ノ風〇―二米

親展

(終)



秘

電報

通信先 次長、次官

號外

北十五日二速ノ四

種類 空襲警報解除

解除時刻 十一時

解除者 中千島海面又ハ海上

解除者 松輪島分遣隊長

北十五日二速ノ五

種類 空襲警報解除

解除時刻 十一時十八分

解除者 北千島要港海面又ハ海上

六二一
一一一
二二一
三三〇
部 署

北 部

軍 隊 長

昭和一九、六、一五
六一共 一二四〇 受付
一五二〇 提出

(終)

(終)

1881

1892



極秘作戦緊急

電報

機用

通電先 次長、支隊。(南京、漢口)、派

旭參電第九七〇號

七月三日朝ニ於ケル状況

一、要旨

岩部隊ハ昨夜衛陽攻撃ヲ中止シ概ネ韓神渡(衛陽西北)ヨリ湖南
 南ニ通ズル貫路ヲ警戒備前ノ線ニ於テ攻撃ヲ準備中ニシテ、成部
 隊ハ永豊京北地區ヲ、南部隊ハ蔡陽南方及東方地區ヲ共ニ永豊雲
 陽陽城ニ向ヒ突進中ナリ

衛陽附近ノ攻撃ニ參加スベキ遺隊及他兵部隊ハ逐次三沙附近ヲ出發
 シアリ、航空部隊ハ連日岩佐部隊ニ對シ物料ヲ投下ス、敵モ亦衛陽
 ニ對シ物料ヲ投下シ該地附近ニ於テ彼我共ニ補給戰ヲ演ジツツアリ

旭部隊參謀長

昭和一九三七年七月五日

昭和一九、七、五

各部隊ノ状況

(1) 岩部隊、針部隊ハ略神渡附近ニ上陸昨二日朝小西門(衛陽西北側ノ門)ノ西北方三〇〇米ノ線ニ進出。和任部隊長自ツ聯隊砲ノ射撃ヲ指揮シ、瀨部隊長ハ敵火ノ中猛烈果敢ナル突撃ヲ敢行シ衛陽東南方面高畑(敵陣地ノ饋給)ヲ遂ニ奪取ス。志摩支隊及岩部隊ハ概ネ神渡ヨリ西南方ニ通ズル道路ニ、佐久間。太田支隊ハ概ネ鐵道ノ線ヲ進出一時攻撃ヲ中止シ爾後ノ攻撃ヲ準備中

獨立歩兵第百十六大隊ハ飛行場西南方ニ潛入シ、獨立歩兵第六十四大隊ハ飛行場附近ニ在リ。柴田部隊ニ配屬セラレタル石崎部隊ハ二日朝、獨立野他兵第二聯隊ハ本三日朝共ニ衛陽ニ向ヒ前進セリ。

(2) 取部隊、歩兵第二百三十四聯隊ハ馬家坂(沙面東北一六軒)

附近ノ約四〇〇ノ敵ヲ殲滅シ十七時頃街埠頭一馬家均西方八軒
附近ノ敵約一營ヲ殲破西進ス、歩兵第二百三十五聯隊ハ二日夕
八暇（永豊東北方一、二軒）ノ敵ヲ捕捉シ敵陣地ヲ突破西南進

戦闘司令部ハ三日十一時汪八暇ニアリ

二日午後追撃戦ヲ有スル約五〇〇ノ敵西方ヨリ湘郷ニ對シ攻襲
シ來ル、同地守備ノ歩兵第二百三十五聯隊ノ第三大隊ハ之ヲ攻
撃中ナリ

(9) 陽部隊ハ昨夕ニ敵軍不明ノ捕獲ニ安仁西門北二西軒ノ附近ニ獲
出、提督聯隊ハ來陽附近及同東方高地ニ獲、用シ來レル敵軍第六
大隊ノ第一七八團及池ノ約一團ヲ攻撃中ニシテ歩兵第六十五
聯隊ノ第一大隊ハ安仁附近ニ於テ敵軍方向ヨリ南下セル敵ヲ攻撃
中ナリ、師團主力ハ來陽ニ向ヒ前進中ニシテ本親本部ハ蘇州橋
ニ安仁西門北二西軒ニシテアリ

(10) 陽部隊ハ小隊定隊（歩兵第二大隊、山砲兵二中隊）ヲ以テ新田郷

壯情市、漢江口ニ共ニ瀾陽北方地區ノ間ノ殘敵ヲ掃蕩セシメ主
力ハ二倍不明ノ銀ニ向ヒ瀾陽南方地區ニ進軍中、瀾陽ハ步
兵一大隊ヲ以テ確保ス

瀾陽政權ヲ一時中止シタル懸念ニ就テ

(1) 軍ハ長沙ノ攻略及其ノ周邊地區ノ作戦ノ進展ニ伴ヒ敵ノ戰勢崩
壞粵漢鐵道線ノ敵ノ配備不備ナルヲ察被シ六月十八日先ヅ佐部
隊政ヲ若郡隊ハ追撃的態勢ヲ以テ瀾陽ニ向ヒ突進セシメタリ
右ノ主眼トスル所ハ瀾陽飛行場故ニ鐵道就中鐵道、橋ノ無礙占
領ニアリ

(2) 攻勢雖終後瀾陽附近三〇〇軒ニ及ブ、當時軍第一線ノ突進豫想以
上ニ迅速ナリシ爲後方ノ狀況ハ水陸補給ノ先頭長沙北方地區ニ
辛ウシテ進出シアリシ状態ニシテ少隊ノ騷擾ノ他自動車、
鐵道等ハ全然使用シ得ズ

各部隊ハ現地物資及鹵獲品ノ利用ニ依リ作戦ヲ續行シアリシ状
況アリ

(3) 航空部隊亦容易ニ長沙、湘潭附近ニ推進シ得ズ

航空威力ノ限界ハ湘潭、衡陽ノ中間地帯ニ及ブニ過ギズ

(4) 右状況ニ於テ佐野隊ノ迅速ナル進入ハ克ク飛行場及鐵道ヲ比較的

輕破壊ノ下ニ占領シ得タルモ、次テ二十九日ヨリ岩佐針、相陽カシ

テ實施セル衡陽城ノ攻撃ハ十二時間ノ力攻メテ約一軒敵陣地ヲ攻

略セルニ過ギズ其ノ攻勢進展緩慢ナリシ主因左ノ如シ

(1) 地形(無敵ノ地沼點在)及阻地ノ原因(側防火力熾烈)故ニ敵ノ

抵抗執拗

(2) 彈藥ノ缺乏

(3) 敵ノ航空勢力優勢

(5) 茲ニ於テ更ニ攻勢ヲ續行スルハ損害ヲ激増スルノ虞アリ

一方軍益般ノ態勢ハ元ノ如ク無選擇シテ衡陽攻勢ヲ必達トセズ

各第一線部隊ノ攻勢續行ノ氣力ハ既極ナルモノナリシモ一時攻勢

ヲ中止シ準備ヲ整ヘタル後編成下一日頃ヨリ攻勢ヲ再興スルニ決

スリ

3

(1) 敵全般ノ態勢ハ崩壊シ外部ヨリノ増援反撃ノ如キ虞少ク且衛陽周邊ニ於ケル我ガ戰略態勢ハ強ヘアリ

(2) 衛陽ヲ據レル敵隊ニ奮闘ヲ完全ニ包圍シ我ガ主攻方面五料ニ歩兵十四大隊ヲ配置シテアリテ敵ヲ掃蕩殲滅シ得ルノ態勢ニアリ

(3) 八日頃ヨリ後方部隊ハ第一線ニ追及ス。十日迄ハ衛陽到着彈藥七六砲筒後日々三〇連ナリ

(4) 航運部隊ハ十日迄ハ長沙、湘潭附近ニ推進シ得

(5) 追撃砲八門、山砲一五門、十加三門ニ稍ト過レテ追撃砲二門、十加五門十五榴三門ヲ十日迄ハ衛陽ニ増加シ得

(6) 軍ハ衛陽攻陥ノ延期ニ係ルコトヲ概ネ七月十五日頃山、鹿兩兵團ヲ第一線トシテ永陽附近ヲ追發、興漢打道作戰ヲ實施シ得ル如ク準備シ得

ク準備シ得

(終)



極秘
重要緊急

日誌用

電報

昭和一九二七年七月五日

旭部隊參謀長

通電先次長支領(漢口南京)測

旭參電第九八八號(電註、部示着島中北天歐變)

七月四日朝ニ於ケル狀況

一、要旨

成部隊ハ永豊ヲ鹿部隊ハ未陽ヲ共ニ占領確保セリ
二、各部隊狀況

(1) 成部隊 戸田聯隊ハ三百十(時)電註以下部未着

(2) 鹿部隊 本朝 大坪聯隊ハ未陽ニ伊藤聯隊ハ慶

田鋪(衡州南々東ニ六料)ニ進出セリ

伊藤聯隊第一大隊、安仁東側ニテ稍々優勢カナル

敵ヲ攻撃中

(3) 山崎部隊 部署ノ大要

(イ) 橋本聯隊(歩兵一大隊基幹)ハ速カニ安仁南側

ニ進出

(ロ) 二神聯隊(歩兵二大隊半基幹)五日六時旭分

鋪南方一五料附近ヲ發シ宮田(東南々ニモ料)下

洋沙胡(東南一〇料)十茶陵一界首壩一高

石(西南方一二料)道ヲ高石ニ前進

(ハ) 松山聯隊(歩兵二大隊基幹)五日六時黄土峯

出發 黄土峯一收縣一安仁一界頭(安仁南々

西ニ四料)道ヲ界頭附近ニ前進

(ニ) 中村聯隊(歩兵一大隊 砲兵二大隊) 五日六時

明月橋(黄土峯西一六料)發、漢舟港(攸縣西南方七料)―淶曰―道子景(安仁西南二六料)道ヲ道子景ニ前進シ醴陵ヲ確保ス

(4) 極部隊 シン部隊

シン部隊一部ヲ以テ八日頃極部隊ノ社港市附近及瀏陽附近部隊ト交代シ得ル豫定

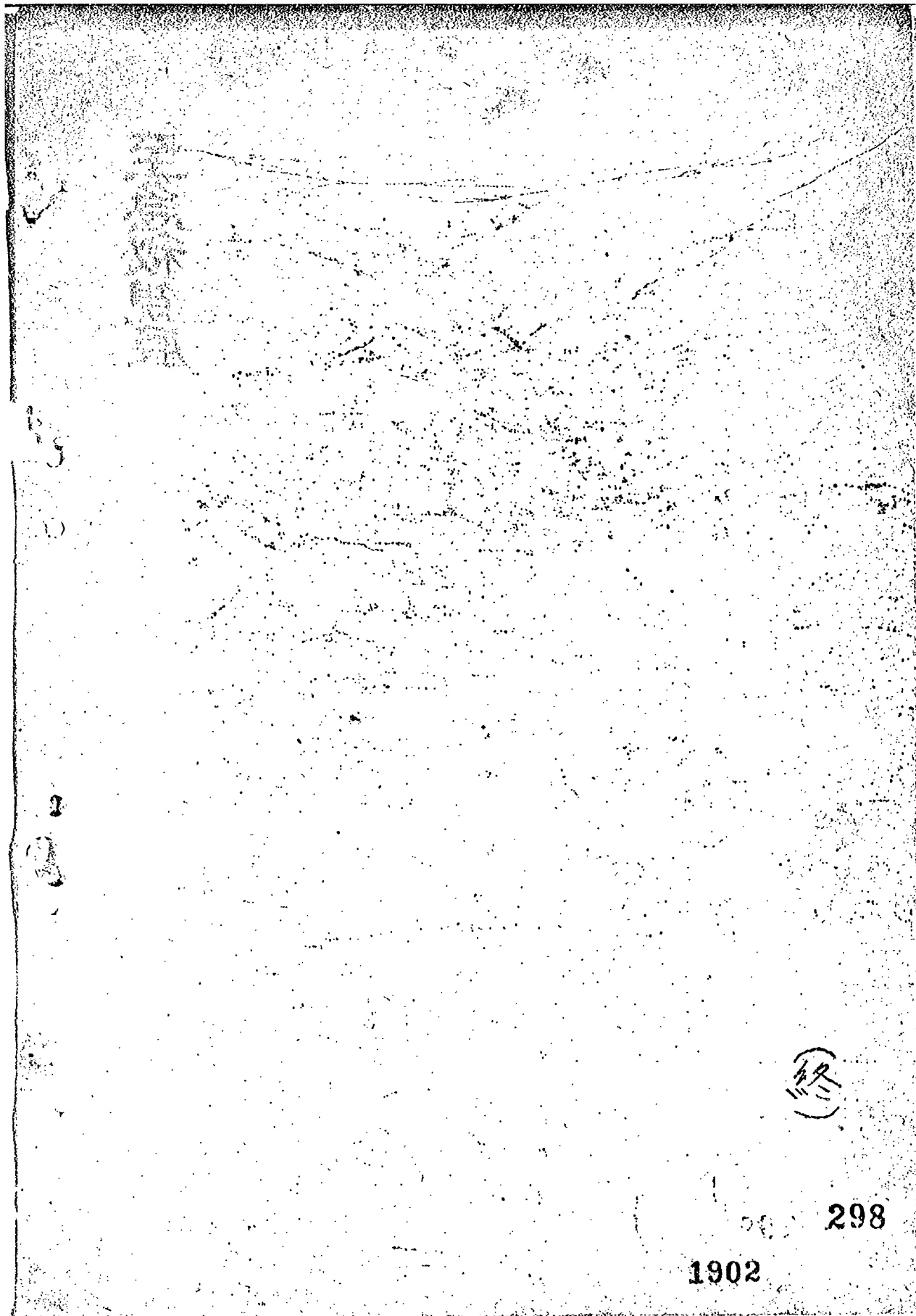
(5) 嘉陵江ハ新橋(衡州西方一六料)西南地區ニ於テ小

破壊シアリ、且白鶴鋪以西遂次軌條ヲ撤去シツツアリ

五塘(新橋南四料)―衡陽道ハ幅六一七米砂利鋪

裝ニシテ破壊シマス

岩部隊ハ機関車三、貨車一〇鹵獲セリ(何レモ破壊)



終
三

298

1902

第二課

電報用紙

極秘

電報

七月二七日〇發
七月二八日〇受付
七月二九日〇提出

昭和一九、七、六

旭部隊參謀長

通電先 次長、支線（漢口、南京、寧波、呂武、信、隸下）

旭參電第九五一號

七月三日以降衢州以北ニ於ケル秘匿地名ヲ廢シ本地名ヲ使用ス

呂武ハ海軍ニモ傳ヘラレ度

（終）

299

T203

S80
211

三十班

極秘

電報
報

迎電先 次長 航空 北 朝草

關東軍線參謀長

關總參二電第二四九號

六月二十一、二十二日兩日三回ニ亘リ「ボシエント」東北地區ニ

於テ敵「A-120」型機ト判断セラルル數機ノ編隊飛行ヲ現認セリ

(向地視察報)

機體概ネ確實ナルモ尙詳細檢討中

(抄)

大ニ共
一六〇〇發
一六一五發
大ニ共
一六〇〇機出

昭和一九、六、二四

1904

第三報

極秘

純用

電報

次長宛

旭部隊隊長

昭和十九年七月六日

東京 陸軍部 陸軍大臣 宛
東京 陸軍部 陸軍大臣 宛
東京 陸軍部 陸軍大臣 宛

旭部隊第九八八號(電報) 七月五日即布ノ未著分)

大ナル級ノ抵抗ヲ受クルコトヲク永豊ヲ完全ニ占領スルト同時ニ

堀内聯隊ハ同地南方地區ニ進出セリ

小柴聯隊ハ四日早朝永豊出發、瀧江ニ突進中

録

小澤 謙次郎 八幡口 町 住 居 氏 名 録

備 考 欄 記 載 諸 君 氏 名 録

本 冊 記 載 諸 君 氏 名 録 凡 諸 君 氏 名 録 記 載 諸 君 氏 名 録

諸 君 氏 名 録 凡 諸 君 氏 名 録 記 載 諸 君 氏 名 録

諸 君 氏 名 録 凡 諸 君 氏 名 録 記 載 諸 君 氏 名 録

諸 君 氏 名 録 凡 諸 君 氏 名 録 記 載 諸 君 氏 名 録

諸 君 氏 名 録 凡 諸 君 氏 名 録 記 載 諸 君 氏 名 録

1906

1906

1906

秘

傍受電報

日誌用

旭部隊參謀長

旭放送第三九號(七月五日(著電區々ノ爲遲延))

昭和一九二七、六

七六〇五〇〇發
七六一〇八〇〇受付
七六〇五〇〇著
七一三三〇〇點檢

七月六日十五時二十分(電報班受付)

一軍ハ第六戰區ニ對スル爾後ノ作戰準備中

(1) 成部隊、渣江ヲ占領セバ引續キ金關寺(渣江西西南二六軒)

方面ニ前進、水豊方面ヨリスル一部ト策應水豊兩方ノ敵ヲ捕

捉撃滅ス

(2) 開部隊、岩切支隊(岩切少將ノ指揮スル歩兵約三大隊基幹)

ヲ以テ七月八日及九日夜營田(湘陰縣北二〇軒)附近ニ於テ

湘江ヲ渡河、沅江縣ニ前進瀧「オウ」及毛角口及朱良砦占領

部隊ヲ併セ指揮シ橫市(寧鄉西西南三〇軒)方向ニ對スル爾

後ノ作戰ヲ準備ス

ニ各隊ノ狀況

(1) 成部隊、四日水豊附近ニ集結完了、小柴部隊渣江ニ向ヒ突進

中、沼郷ニ在リシ安達支隊ハ三日未明前逃シ來レル敵第十五師ノ一師團ヲ擊滅セリ

(2) 鹿部隊、一部ヲ以テ水口山、官營官機局ヲ奇襲占領セリ

(3) 開部隊、新墻附近ニ進出セリ

敵情

(1) 第六五軍ハ來陽方向ニ北上シツツアリ、五日十四時頃鹿部隊

進進隊ト交戦セシモノノ如シ

(2) 廖田鋪附近ニ在リテ豫備タリシ第四四軍第一五〇師ハ義縣附

近ニ進出セルモノノ如シ

(3) 第三七軍ハ安仁西方地區ニ七月二日進出シ鹿部隊ト交戦セシ

モノノ如シ

四 万縣方面補給ノ爲加部隊ノ駄馬ニ中隊ハ三日夜駄馬三中隊及

擔架一中隊ハ四日夜涑口附近ニ於テ湘江ヲ渡河、涑口對岸ニ

衡山一衡州道ヲ衡州ニ向ヒ急進中

○ 明日ノ天氣
(1) 長沙晴後高曇、西寄ノ風後北寄ノ風一、四米晴時々薄曇

(2) 衡州、西寄ノ風〇一二米

(終)

陸軍省

陸軍部



電報

通電先次長 畑參謀長 (轉發)

旭參電第三一號

旭部隊參謀長

七月五日朝迄ノ狀況

(1) 成部隊主力ハ永豊附近ニ於テ周邊附近ノ殘敵ヲ掃蕩シ一部ハ渣江ニ回行動ヲ開始中

(2) 山部隊醴陵附近ニ作戰ヲ開始セリ

(3) 鹿部隊ハ來陽及廖田鋪附近ヲ掃蕩中ニテ伊藤聯隊ノ小澤挺進隊ハ水口山附近官營鍊鋸所

白官磁局ヲ占領セリ

(4) 佐部隊ノ衡州飛行場占領時ノ主要戰果左如シ

二聯裝 機關砲 九

單聯裝 機關砲 七

303

昭和一九三七、七
七五三三三發
六八八言著
六九五五撰

1909

茶	石	輕機	機	重機
		關	關	關
		銃	銃	銃
		彈	彈	彈
		七五〇	三五〇	一
		重機	輕機	
		關	關	
		銃	銃	
		彈	彈	
		六六	五〇〇	六
		米	玄	
		一五〇俵	三〇俵	
		(三〇俵入)	(三〇俵入)	

(終)

1910 304

第三課

極秘

電報

旭部隊參謀長

昭和一九、七、七

1911

通電先 次長、支隊（後宮、南京）、渡
旭部隊第九二號機 電報部 電報室 電報機

但シ敵隊の一部ヲ以テ之ヲ確保セシムベシ

(9) 巨ノ第二野戦補充隊ヲ部隊ヲシテ歩兵約一大隊ヲ一連始ニ先

遣シ該地ヲ確保セシム

ニ各部隊ノ状況

(1) 砲部隊

砲隊 砲隊ハ在末明小水備（來馬、前方一〇軒）附近ニ進出シ川瀬公

砲隊ヲ進出セリ 更ニ力ハ安撫ニ進マ前進中

(2) 里部隊ハ一連部隊ヲ備シ補給線ヲ為シ隊隊各一（一隊約八〇

隊）及易家灣（長沙約三〇

305

「巴以」附近、長嶺約二中队（各中队約三五〇噸積載）ヲ以テ編成

(d) 其ノ他ノ部隊ハ大ナル變態ナシ

第九戰區長官部ハ平坊（衢州南一六〇軒）以北第九兵站總司令部

ハ桂林（衡陽南西約一三〇軒）ニ在リ 桂林在住家族ノ大部

ハ柳州ニ赴クモノノ如シ

（電報）以下一部未詳

俄國西方地區ニ移動中ナリシモノノ如ク第五八軍ハ萍鄉同南方

地區ニ於テ遊蕩シツツアルモノノ如シ

第七師ハ常德ニ進出シ常德城ヲ全圖シアリ

(終)

新編陸軍

リ海福部隊ヲ以テ利川西南方地區ヨリ北進中ノ

敵第六五軍ヲ求メテ攻撃伊野部隊ハ慶田舖ヲ確保

(3) 成部隊ノ小柴部隊ハ敵ヲ撃破シツツ昨五日夕龍

興橋道口西北一八軒附近前進中

(4) 榎部隊ハ本六日ヨリ昨七日ニ互リ主力ノ集結位

置ヲ大宮舖地區ニ推進中戦鬪司令所ハ本六日樂

息灣(大宮舖北方ニ軒ニ前進ス

(5) 開部隊若初支隊ハ本六日先廟前ニ集中豫定ノ如

前進セシ筈

二敵情

(1) 第八軍醴陵攻撃部署

(2) 第一師豫備隊ノ一部ヲ以テ四日十六時丁家山醴

陵東南五軒(亂石壘)西方一軒附近ニ前進セシメ

(一) 諸不明(里)坳(禮陵)東南(料)敵攻擊ニ協力セシメ
 主力ヲ以テ四日十時(禮陵)ニ猛進之ヲ占領セシム
 (四) 新編第一師ノ二五營(諸不明)三星里(細汾)鋪東
 東北(諸不明)料(過)珠橋(西)ニ料(附近)ヲ前進セシメ
 彈(三星)里南(三)料(附近)ニ南北ノ線ニ敵ヲ擊破セシメ
 主力四日十時(快活)谷(細汾)鋪北北東ニ料(田心)橋北
 一料(二)前進之ヲ占領セシム
 (ハ) 新編第十一師ノ一部(箇)團ヲ以テ(馬)鞍嶺(細汾)鋪東
 九料ヲ經テ(三)吉嶺(西北)四料ヲ奪回セシメ本隊
 八日十時(孫)家灣(西北)四料(間)ノ地區ノ敵(戰)擊
 之ヲ(三)領第一八三師(以下)未着

軍機極秘親展

1916

1916

300